

No.71

すくらむ

2008.7 発行



福井県特別支援教育センターは、県立病院関連四機関の4階にあります。

P1

センター業務から

当センターが行っている研修講座の最近の動向についての報告です。

P2

新しい研修がスタートしました!

本年度からスタートした特別支援教育コーディネーターアドバンス研修(小・中学校)、特別支援教育コーディネーター養成研修(高等学校)を紹介します。

P3

一人一人のニーズに応えるために

各学校では特別支援教育の体制が整ってきました。これからは、小・中学校においても個別の教育支援計画を策定します。

P4

シリーズ 学校・学級紹介

今回は、福井県立清水養護学校・福井南養護学校高等部清水分教室からの発信です。

研究発表会のご案内

日時：平成21年2月13日(金)
会場：福井県立大学 交流センター
(詳細は12月頃にお知らせします。)

各学校・機関等からの実践発表をお待ちしています。

センター業務から

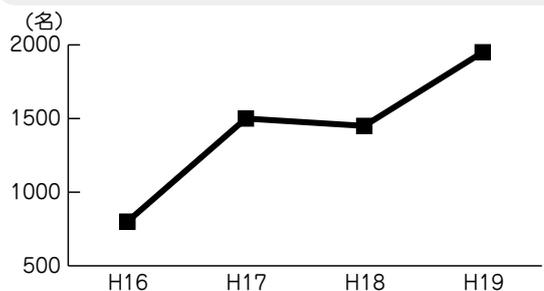
最近の研修講座の動向

平成19年度から特別支援教育への取り組みが本格化する中、当センターでは様々な業務や事業を実施しています。その中で、特別支援教育を推進する質の高い人材の育成を目指し、研修講座を実施しています。従来の基礎概論・指導方法論に加えて、LD(学習障害)や個別の指導計画についての内容など、焦点を絞った研修講座を特設してきました。学校現場のニーズに応える研修を企画したことで、小・中学校からの受講者が大幅に増加しています。希望の多い研修講座では、会場に入りきれないため、会場を変更することもあり、ご迷惑をおかけしております。

これからも、研修講座の形態を工夫するなどしながら、みなさんの要望に応える研修を企画していきます。

分類	対象
基礎概論	特別支援教育に初めて携わる方や、関心のある方
指導方法論	特別支援教育の見方を広め、考え方を深めたい方
特設	焦点を絞り専門性をさらに高めたい方

平成16年度～平成19年度までの 総受講者数の推移



研修講座 No.2 「障害の理解と支援」

—子どもの育ちを支え、つなぐ— H20.6.5 実施
シンポジウム形式で行いました。幼児期から成人期まで、見通しをもって子どもを支えていくことの大切さを確認しました。



New 新しい研修がスタートしました!

県内の全ての公立小・中・高等学校において、特別支援教育コーディネーター（以下、コーディネーターと略す。）が指名されました。小・中学校では校内委員会の設置率は100%になるなど特別支援教育を推進する仕組みは整ってきました。

今後は、子どもたちのライフステージにあわせた支援を展開していくための地域のネットワークづくりや、本年度から本格的に始まった高等学校の特別支援教育を推進していくことが課題と考えています。そこで、本年度から新たに講義や演習、研究協議などを組み合わせた、より実践的なシリーズ研修を実施します。始まったばかりの特別支援教育コーディネーターアドバンス研修（小・中学校）と特別支援教育コーディネーター養成研修（高等学校）についてご紹介します。

特別支援教育コーディネーター アドバンス研修

小・中学校

各地域の特別支援教育を進めるために、中心的な役割を果たすコーディネーターを養成する研修です。昨年度までにコーディネーター養成研修を修了し、校内並びに地域の特別支援教育体制の構築・充実に取り組んでいただける先生方を対象としました。

福井大学 松木健一教授をスーパーバイザーにお迎えし、校内の課題解決だけでなく中学校区の小・中学校や地域の保育園・幼稚園と連携した取り組みについての研修も行います。

第1回	コーディネーターに期待されるものとは
第2回	ファシリテーション技法と活用 (小・中コーディネーター養成研修と合同開催)
第3回	個別の指導計画 (研修講座No16)
第4回	課題について中間報告
第5回	進路、移行支援 (中学校研修者のみ高等学校研修に参加)
第6回	課題について最終報告
地区研修1	各市町や中学校区での研修会企画・実施
地区研修2	各市町や中学校区での研修会企画・実施



コーディネーターアドバンス研修の第2回研修は、小・中コーディネーター養成研修と合同で行いました。グループで演習を行う際に、リーダー的な役割を果たしていただきました。

アンケートから

- ・ファシリテーターの役割は、中立の立場で話し合いを促進し、学校組織の力を引き出すことであることがわかりました。
- ・コーディネーターが知り合うよい機会になりました。同じ地域の中でコーディネーター同士がつながっていったらと思いました。

特別支援教育コーディネーター 養成研修

高等学校

高等学校におけるコーディネーターの役割についての理解を深め、資質の向上を図る研修です。また、校内支援体制の充実や関係機関とのネットワーク構築を図ります。

本年度は、コーディネーターの指名を受けた先生方を対象としました。30名が受講しています。

福井県立大学 清水聡准教授をスーパーバイザーにお迎えし、アセスメント、発達障害や精神障害に関する医学的な基礎知識、中・高連携や移行支援、進路等について講義や研究協議を展開します。中学校のコーディネーター養成研修受講者やアドバンス研修受講者、特別支援学校のコーディネーターと合同で協議する場も設定しています。

第1回	高等学校における特別支援教育の現状とコーディネーターの役割
第2回	アセスメント、チーム支援、関係機関との連携
第3回	思春期における精神疾患 (研修講座No.3)
第4回	滋賀県立日野高等学校における取組みについて
第5回	進路、移行支援 (中学校研修者との合同研修)
第6回	所属校の現状と課題の整理



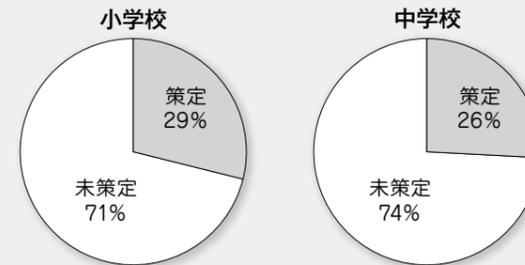
第2回研修では、各校からケースを持ち寄り、グループで協議しました。生育歴の把握や発達検査の実施など、アセスメントの重要性やチーム支援の必要性について確認しました。

一人一人のニーズに応えるために

個別の教育支援計画の策定と 個別の指導計画の作成

乳幼児期から成人期までの一貫した支援を行い、子どもたち一人一人のニーズに応えていくためには、個別の教育支援計画の策定や個別の指導計画を作成していくことが大切になってきます。

個別の教育支援計画の策定状況



福井県における個別の教育支援計画の策定状況は、小学校29%、中学校は26%です。文部科学省は、平成24年度までに、小・中学校における個別の教育支援計画の策定率を50%にし、支援を充実させていくことを目標としています。

※平成19年度特別支援教育体制整備状況調査による(平成19年9月1日実施)。

個別の教育支援計画と 個別の指導計画のメリットは

- 目標や手立てが明確になります。
- 先生や保護者等との情報の共有がしやすくなります。
- 効果的な指導方法を引き継ぐことができます。

Q1 個別の教育支援計画とは？

障害のある幼児児童生徒のニーズを正確に把握し、長期的な視点で乳幼児期から学校卒業後までを通じて一貫して的確な教育支援を行うことを目的とします。

園や学校が中心となって連携・調整を行い、保護者を含めた関係者や支援機関と協議して策定します。個別の教育支援計画を策定することによって、関係者で支援目標を共通理解し、役割分担をして支援することができます。

Q2 個別の指導計画とは？

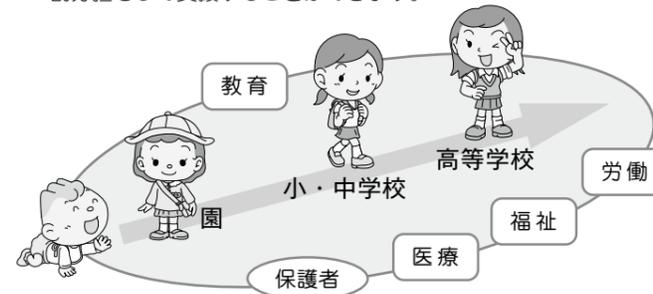
児童生徒の実態に応じて適切な指導を行うために学校で作成されるものです。学校全体で共通理解を図ることができ、学期・年間の指導目標や指導内容・方法等が明確になります。

Q3 個別の教育支援計画と指導計画の 関係は？

個別の教育支援計画の策定を踏まえて、学校が主体となって個別の指導計画を作成します。

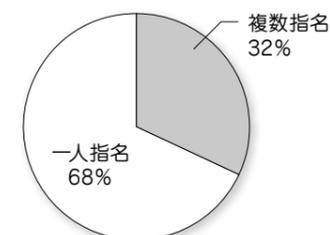
Q4 個別の教育支援計画や個別の指導計画は どのようにして策定、作成すればよいの ですか？

特別支援学校では、個別の教育支援計画を策定、活用しています。また、当センターが作成した支援シート(ABCシート)は、個別の指導計画を作成する際に利用できます。策定、作成する際には、特別支援学校や当センターもお手伝いできます。



複数コーディネーター制の推進

県内の小・中学校で複数コーディネーター制を取り入れている割合



複数コーディネーター制はとても機能的で効果的なシステムです。平成20年度に、福井県の小・中学校で複数コーディネーター制が取り入れられている割合は32%です。複数コーディネーター制を取り入れることによって、支援会議への参加や外部機関との連絡、調整などについて校内で役割分担ができます。また、コーディネーターが一人で抱え込まずに相談・協力して、校内支援体制づくりを進めることができます。

学校や地域で特別支援教育を推進するためには、コーディネーターの役割が重要です。ぜひ複数コーディネーター制を取り入れていきましょう。

福井県立清水養護学校 福井南養護学校高等部清水分教室

本校は、昭和52年に、福井県心身障害者コロニー若越ひかりの村に併設して開校しました。平成10年4月には、本校内に福井南養護学校高等部清水分教室が設置され、小・中・高一貫した教育ができるようになりました。在籍児童生徒は、小学部9名、中学部2名、高等部8名です。小集団のメリットを活かして、一人一人のニーズに応じたきめ細やかな教育を行っています。医療的ケアの必要なお子さんには医療的ケア看護師が対応しています。また、地域とのつながりを大切にするため、居住地校交流や学校間交流、地域の人たちとの交流を行っています。さらに支援部が中心となって校内支援・校外支援を積極的に進め、地域における特別支援教育のセンター的機能を果たしています。

では、それぞれの学部の授業の様子を紹介します。

中学部

保健体育「短距離走」

中学部は保健体育や音楽など高等部と合同で行っている授業があります。「ふくい健康の森」の400mトラックを利用して短距離走の練習をしたり、展望台までの坂道や階段など変化に富んだ遊歩道をウォーキングしたりして、体力づくりに取り組んでいます。



小学部

おはなし遊び

小学部では全員で行っている合同学習が5つあります。その中のおはなし遊びでは、子ども自身が登場するお話ビデオの視聴、パネルシアター、大型絵本の読み聞かせ、劇遊び等を行っています。劇遊びは衣装や小道具、身振り等を工夫しながら実際に物を操作したり体を動かしたりして演じる場面を多く取り入れており、子どもたちにとっても好評です。



高等部

総合的な学習の時間

平成11年度から丹南高等学校と交流を始め、文化祭の見学を行いました。平成19年度からは、本校体育大会の交流種目等と一緒に練習したり、丹南高等学校文化祭に参加し作業学習で作った製品や農作物を販売したりしました。継続的な交流を行うことで、同世代の友達に関心をもったり、一緒に活動する楽しさを感じたりしています。また、丹南高等学校の職員や保護者、卒業生の方々などとも交流が広がり、多くの人たちとかがわることができました。



お知らせ

平成20年度 特別支援教育関連研究大会 等

- 第30回 東海北陸地区特別支援教育研究大会(富山大会)
7月31日(木)～8月1日(金) 高岡市民会館他
- 第30回 福井県養護学校教育研究大会
8月22日(金) 10月8日(水) 嶺南西養護学校他
- 第54回 福井県特別支援教育研究大会(南越大会)
8月26日(火) 越前市いまだて芸術館 仁愛大学
- 第46回 中部地区肢体不自由教育研究大会(福井大会)
10月9日(木)～10月10日(金) フェニックス・プラザ 福井養護学校
- 第47回 全日本特別支援教育研究連盟全国大会(京都市大会)
10月29日(水)～10月31日(金) 京都会館他
- 福井県特別支援教育振興大会・青空教室
11月2日(日) 福井県生活学習館(ユニー・アイふくい)
- 福井大学教育地域科学部附属特別支援学校 公開研究会
11月19日(水) 福井大学教育地域科学部附属特別支援学校
- 第44回 福井県特別支援教育セミナーおよび
第20回 福井県特別支援教育の発展を願って・語る会
11月28日(金) 鯖江市鸚鵡会館 サバエ・シティーホテル

編集後記

今回の「すくらむ」では、本年度スタートした特別支援教育コーディネーターアドバンス研修(小・中学校)と特別支援教育コーディネーター養成研修(高等学校)について特集しました。

当センターでは、「すくらむ」についてみなさんのご意見、ご感想をお待ちしております。

センターだより すくらむ 第71号

発行日 平成20年7月14日
発行所 福井県特別支援教育センター
所在地 〒910-0846 福井市四ツ井2丁目8-1
TEL (0776) 53-6574 FAX (0776) 52-6272
E-mail info@fukuisec.jp
URL <http://www.fukuisec.jp>
福井県教育庁嶺南教育事務所特別支援教育課
〒917-0241 小浜市遠敷2丁目205
TEL (0770) 56-1095 FAX (0770) 56-1391
敦賀駐在 TEL・FAX (0770) 24-0421
印刷所 創文堂印刷株式会社